

「情報処理学会論文誌：プログラミング」の編集について

プログラミング研究会論文誌編集委員会

情報処理学会では、研究会の活性化を目指して様々な改革を進めている。プログラミング研究会はこの流れを受けて、研究会のあるべき姿について徹底的な討論を行ってきた。その帰結として、研究会独自の論文誌の編集にいち早く踏み切ることを選んだ。

研究会論文誌「情報処理学会論文誌：プログラミング」の特徴と意義は大きく3つある。第1は、従来の「論文」に対して想定されてきた対象分野や査読基準では必ずしもカバーしきれない、多様な成果の公表の場を提供することである。第2は、投稿論文の内容を研究会で発表することを義務づけることによって、迅速で的確な査読を実現するとともに、議論の結果の最終稿へのフィードバックを可能にすることである。第3は、研究内容の表現に必要であると認められれば、長大な論文も採録可能としている点である。

本論文誌を通じて、日本のプログラミング分野の研究活動を盛り上げていきたい。読者諸氏からの多くの論文投稿を期待する。

1. 対象分野

プログラミングは、コンピュータの誕生と同時に生まれた伝統的な分野であるが、コンピュータがある限り不可欠な技術である。並列分散処理やマルチメディア応用など処理内容が高度になるにつれて、プログラミングの重要性は増すことがあっても減ることはないであろう。

「情報処理学会論文誌：プログラミング」は、プログラミングに関するテーマ全般を専門に扱う論文誌である。具体例として次のようなテーマがあげられる。

- プログラミング言語の設計、処理系の実装
- プログラミングの理論、基本概念
- プログラミング環境、支援システム
- プログラミング方法論、パラダイム

これらを応用したシステムの開発事例も対象に含まれる。また、上記以外でも、プログラミングに関する面白い話題であれば対象となる。

2. 編集方針

本論文誌は、プログラミング研究会における発表と論文誌投稿が密接にリンクされている点に特徴がある。

論文誌への投稿者が用意する研究会発表用の資料が、そのまま本論文誌への投稿論文となる。

研究会発表をせずに本論文誌に投稿することはできないが、逆に、本論文誌への投稿をとまなわない研究会発表は可能である。そのような発表や、論文が不採録となった発表については、アブストラクトが本論文誌に掲載される。従来のプログラミング研究会の研究報告は廃止し、その代わりとして、研究会登録者には本論文誌が配布される。

本論文誌に掲載する論文は、通常のオリジナル論文と、サーベイ論文の2種類とする。どちらの種類であるかは、著者自身の指定によって決まる。論文の記述言語は日本語、英語のいずれかとする。論文の長さに関する制限は設けない。

3. 査読基準

基本的に、減点法に陥ることを避け、論文のよい点を積極的に評価するという方針を貫く。具体的には、新規性、有効性などの評価項目のうち、どれか1つの点で特に優れていると認められれば採録する。体裁のみが整った論文より、若干の不備はあっても技術的な貢献の大きい論文を積極的に受け入れる。

このような観点から、たとえば次にあげるような、従来は論文としてまとめることが難しかった内容について論じた論文もできるだけ受け入れる。

- プログラミング言語の設計論
- システムの開発経験に関する報告
- 斬新なアイデアの提案
- 概念の整理、分類法、尺度の提案
- 複数のシステムその他の比較

4. 投稿から掲載までの流れ

本論文誌への投稿希望者、および研究会での発表希望者は、発表会開催日の2~3カ月前までに発表申込みをする。具体的な方法は研究会ホームページ <http://www.ipsj.or.jp/sig/pro/> を参照していただきたい。申込みの際には、本論文誌への投稿の有無、オリジナル論文とサーベイ論文の種別指定を明記する。また、アブストラクト(和英両方、和文は600字程度)を添付する。

論文投稿を希望した場合は、研究発表会の3週間前までに、別に定めるスタイル基準に従ったカメラレディ形式で論文を提出する。

毎回の研究発表会の直後、編集委員会が開催され、各論文について1名の査読者が決定される。査読報告をもとに、編集委員会は採録、条件付き採録、不採録のいずれかの判定を行い、発表会開催後3週間程度で発表者に採否通知を行う。照会の手続きはないが、論文改善のための付帯意見が添付される場合がある。この場合は、3週間以内に改良版を作成する。

5. 研究発表会

2002年度の発表会予定は次のとおりである。

- 6月17～18日 [プログラミング言語の設計と実装]
 8月21～22日 [SWoPP—並列/分散/協調プログラミング言語と処理系]
 10月18～19日 [一般]
 1月23～24日 [一般]
 3月18～19日 [一般]

6. 編集母体

本論文誌は、下記のプログラミング研究会論文誌編集委員会の責任で編集を行う。各研究発表会ごとに2名の担当編集委員が割り当てられ、投稿論文の査読プロセスを主導する。

プログラミング研究会論文誌編集委員会

- 委員長 村上昌己 (岡山大学)
 委員 岩崎英哉 (電気通信大学)
 上田和紀 (早稲田大学)
 小川瑞史 (科学技術振興事業団)
 小野寺民也 (日本アイ・ビー・エム)
 久野 靖 (筑波大学)
 柴山悦哉 (東京工業大学)
 田浦健次朗 (東京大学)
 高木浩光 (産総研)
 高橋和子 (関西学院大学)
 富樫 敦 (静岡大学)
 原田康德 (科学技術振興事業団/NTT)
 前田敦司 (筑波大学)
 松岡 聡 (東京工業大学)
 結縁祥治 (名古屋大学)
 渡部卓雄 (国立情報学研究所/東京工業大学)

本号の編集にあたって

2002年度第1回研究発表会(特集:プログラミング言語の設計と実装)

担当編集委員 久野 靖, 前田敦司

2002年度第2回研究発表会(特集:並列/分散/協調プログラミング言語と処理系)

担当編集委員 高木浩光, 田浦健次朗

2002年度第1回プログラミング研究会は、2002年6月17日より18日まで情報処理学会会議室にて開催された。特集テーマは「プログラミング言語の設計と実装」であったが、特集テーマのみに制限せずそれ以外の発表についても申込みを歓迎している。

この回は9件の発表が行われ、発表25分、質疑20分の時間で発表を行った。発表の内容としては、ガーベジコレクションやコンパイラの実装技法を中心に、テーマに沿った内容であった。

2002年度第2回プログラミング研究会は、2002年8月21日より22日まで並列/分散/協調処理に関するサマワーショップ(SWoPP湯布院2002)の一環として湯布院ハイツにて開催された。

7件の発表が行われ、発表25分、質疑20分の時間で発表を行った。内容は並列・分散プログラミング言語に関するものを中心に、メモリ管理やリフレクションに関するものまで、多岐にわたった。

投稿原稿の査読を議論する編集委員会会合は、編集委員ならびに編集委員会が出席を依頼したメンバで現地にて開催した。ただし、投稿論文の共著者となっているメンバは、その論文についての議論の間は退席している。第1回研究会では、開催日の研究会終了後に1回ずつ計2回の会合を行った。第2回研究会では、開催日ごとに昼と研究会終了後の2回、計4回の会合を行った。十分な議論の後、各投稿論文について担当の査読者を決定し、査読を依頼した。

最終的に、第1回研究会で投稿を希望したうち1件の論文(通常論文)、第2回研究会からは3件の論文(通常論文)が採録となった。本号にはうち2件を掲載し、残り1件は次号以降に掲載する。これらの論文の掲載に続き、それ以外の発表については1ページの概要を掲載してある。掲載順序は、論文、概要それぞれについて当日の発表順に従うことにした。

最後に、研究会開催および論文誌編集に様々なご協力を賜った皆様に深い感謝を捧げたい。